



誰かを「**死刑**」したいのは、  
あなたなのかい？

ドキュメンタリー映画

# 望むのは **死刑**ですか 考え悩む“世論”

企画・佐藤 舞 / ホール・バーコン

監督・長塚 洋

制作・Institute for Criminal Policy Research (イギリス)

助成・スイス外務省 ほか

上映協力・NPO法人 監獄人権センター

2015 / HD / 59分

<http://nozomu-shikei.wix.com/movie>



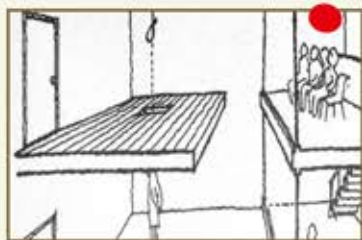
「罪」と「罰」をめぐる、究極の議論が始まる。

他者への抑えきれない処罰感情とは。  
犯罪の抑止力としての極刑とは。  
日本が「死刑」を容認する真の意味とはなんなのか——？

# 国民の8割が死刑に「賛成」?

それが、日本政府による意識調査の結果だ。「圧倒多数の支持」を、政府は死刑を続ける理由としてきた。だが本当なのか?

死刑の情報提供や議論を、政府は避けてきた。命を奪うこの刑罰を、実は人々にはよく知らない。そんな中、ある研究者によって都内の会場に、一般市民135人が集められた。それは、人々の心をより深く探る「審議型意識調査」の試み。テーマは、日本の刑事制度だ。市民たちは皆、初対面。多くが死刑については賛成と言いつつも「考えたことがなかった」という。研究者は冒頭、こう宣言した——「討議して当たり着いた意見を、国民の判断と考えます」。



「この国に足りないのは話しあいだ」  
山本太郎 ●参議院議員・俳優

「この映画で語られていることを、この国のすべての人は議論しなければならぬ。共に迷い、共に悩み、そして考え、言葉にし、言葉を聞く、決して思考停止しないための、意欲的で真摯な映画だ」  
雨宮処凛 ●作家・活動家

「死刑というものを、まじめに本気で考えるきっかけを、この映画は与えてくれる」

田原総一朗 ●ジャーナリスト

「操作・誘導されてきた死刑に関する世論という壁に、挑もうとする画期的な試みだ。私が法相時代に必要性を訴えた」

「国民的議論」を先取りする「この試みを見て、あなたなら何を考え、何と応えるだろうか」

平岡秀夫 ●元法務大臣

「映画を観て、死刑について自分のこととして考えてほしいと思います」  
袴田ひで子 ●冤罪死刑囚の家族

## ——知って、揺らぐ。語り合って、悩む。

2日間の調査ではまず弁護士や専門家、犯罪被害者などから話を聞く。続いて、市民どうし意見を述べ合う。すると市民たちは、さまざまな反応を示し始めた。

死刑に反対する被害者も存在すると知って「死刑支持が揺らいだ」という若者。死刑が犯罪を減らすとは証明できないと知って「もっと苦しい刑罰が必要かも」と言い出す中年男性。冤罪による死刑判決の多発に、とまどう若い女性。

知ることで初めて悩み、自分とまったく違う意見に触れて悩み、当たり前と思っていた考えを揺さぶられる“世論”の担い手たちを、カメラは捉え続ける。答えの出ない議論のなかで、“普通の人々”の意識に何が起きるのか? 混とんから立ち現れる、“世論”のほんとうの顔とは…。市民が自ら考え悩むことの意味を、映像は問いかける。

<http://nozomu-shikei.wix.com/movie>

自主上映会をしませんか? 形態不問・料金応相談 yoh340san@gmail.com 長塚洋まで



ドキュメンタリー映画  
望むのは  
死刑ですか  
考え悩む“世論”